

全般季節予報支援資料 1か月予報

2025年10月23日

予報期間：10月25日～11月24日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

北・東日本では、2週目に気温がかなり高くなる所があるでしょう。

出現の可能性が最も大きい天候

北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

北日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

東日本日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

東日本太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。

西日本太平洋側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

全般1か月予報(確率)

1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低 並 高	少 並 多	少 並 多	少 並 多
北日本	日本海側 太平洋側	20:30:50	30:40:30 20:40:40	30:30:40 30:40:30	
東日本	日本海側 太平洋側	10:30:60	30:40:30 20:40:40	30:30:40 40:40:20	
西日本	日本海側 太平洋側	10:30:60	30:40:30 20:40:40	30:40:30 40:40:20	
沖縄・奄美		10:10:80	20:30:50	50:30:20	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低 並 高	低 並 高	低 並 高
北日本	30:50:20	10:30:60	20:30:50
東日本	20:40:40	10:20:70	10:20:70
西日本	20:30:50	10:30:60	10:20:70
沖縄・奄美	10:20:70	10:30:60	10:20:70

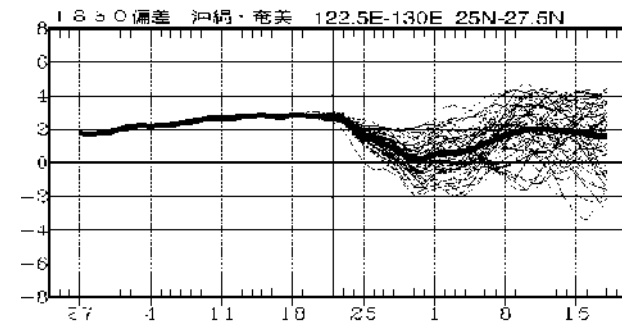
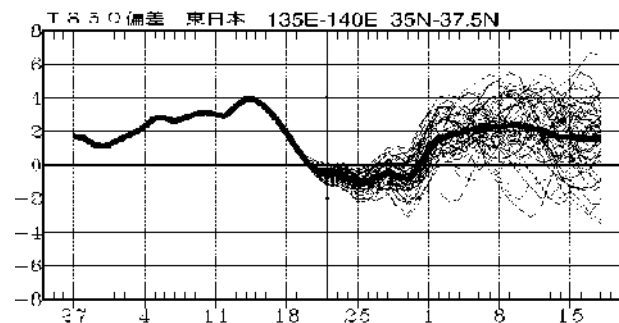
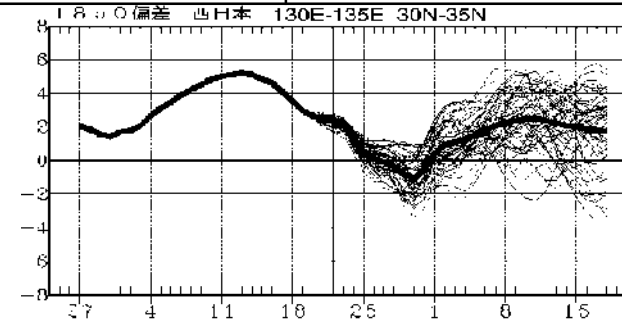
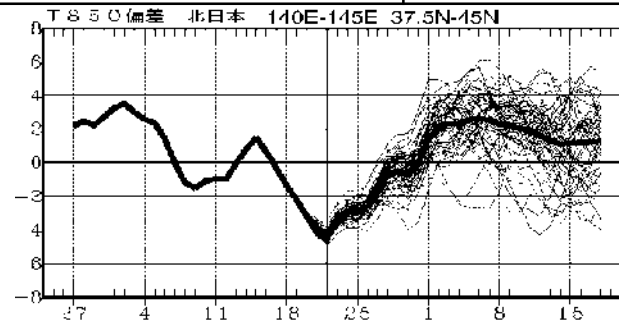
全般1か月予報のポイント

- ・向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため全国的に高く、北・東日本では2週目はかなり高くなる所があるでしょう。
- ・低気圧や前線及び湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は、沖縄・奄美では多く、北・東・西日本太平洋側では平年並か多いでしょう。また、向こう1か月の日照時間は、沖縄・奄美では少なく、東・西日本太平洋側では平年並か少ないでしょう。

各週における天候のポイント(気温)

	1週目(10/25～10/31)	2週目(11/1～11/7)	3～4週目(11/8～11/21)
想定される天候(気温)	北日本では平年並でしょう。東日本では平年並か高く、西日本と沖縄・奄美では高いでしょう。	全国的に高く、北・東日本ではかなり高くなる所があるでしょう。	全国的に高いでしょう。
根拠	東・西日本と沖縄・奄美は、期間はじめに暖かく湿った空気の影響を受けやすい(P.12,P.13参照)。	日本の東を中心に偏西風が北に蛇行し、暖かい空気に覆われるとともに、北日本中心に南から暖かい空気が流れ込みやすい(P.12,P.13参照)。	日本付近で偏西風が北偏して流れて、暖かい空気に覆われやすい。季節進行が遅い(P.12,P.13参照)。

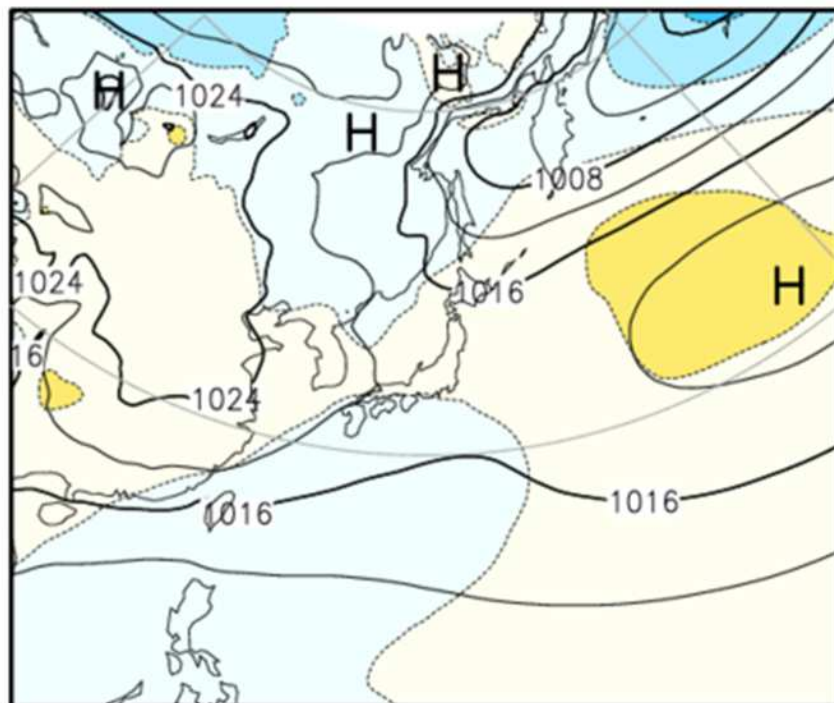
850hPa気温 偏差時系列



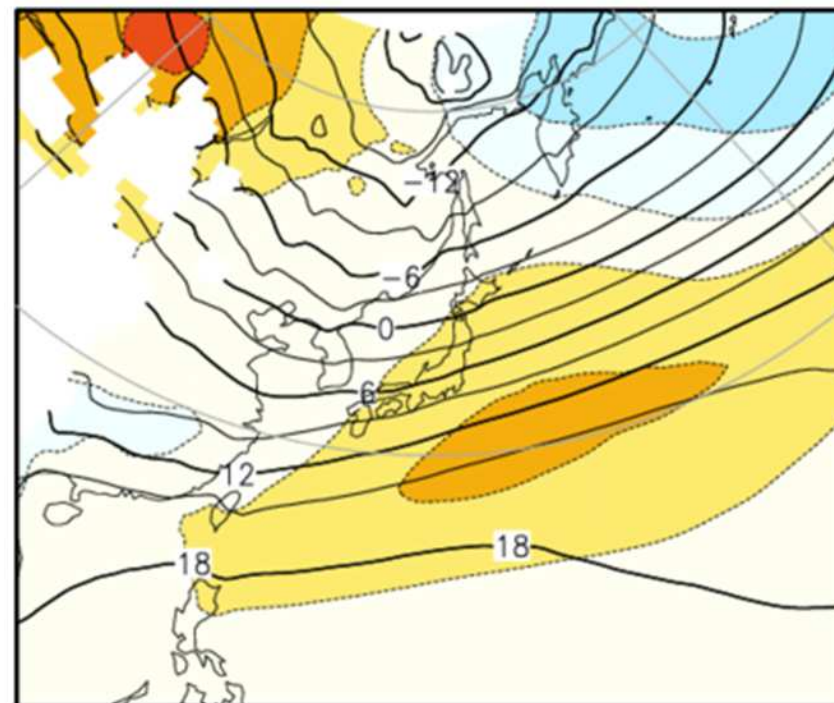
各週における天候のポイント(天気)

	1週目(10/25～10/31)	2週目(11/1～11/7)	3～4週目(11/8～11/21)
想定される 天候 (天気)	北・東日本日本海側では、低気圧や前線、寒気の影響を受けやすく、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。 北・東日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。 西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。 西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。 沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わりますが、前線や湿った空気の影響で、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。	北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。 北日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。 東・西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。 東日本太平洋側では、低気圧や前線の影響で、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。 西日本太平洋側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わりますが、低気圧、前線や湿った空気の影響で、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。	北・東日本日本海側では、寒気の影響を受けにくく、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。 北・東日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。 西日本日本海側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるでしょう。 西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
根拠	北・東日本日本海側は低気圧や前線、低気圧通過後の寒気の影響を受けやすい。沖縄・奄美では、引き続き、前線や湿った空気の影響を受けやすい(P.10-P.13参照)。	東・西日本太平洋側と沖縄・奄美は、上空の西谷と南からの暖かく湿った空気の影響を受けやすい(P.10-P.13参照)。	冬型の気圧配置が長続きせず、北・東日本日本海側では、寒気の影響が弱い(P.10-P.13参照)。

海面気圧(1か月)



上空約1500mの気温(1か月)

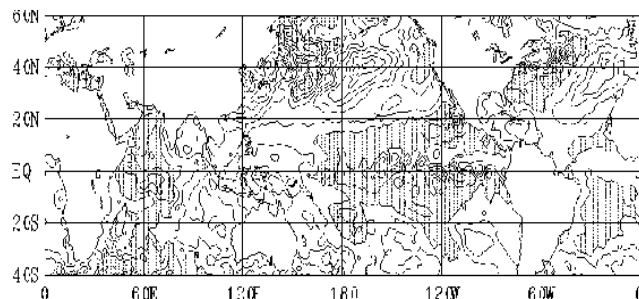


1か月平均の海面気圧(左図)は、日本の東と華南付近で高気圧が強い一方、日本の南では、平年より気圧が低く予測されています。東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では、低気圧や前線、湿った空気の影響を受けやすい時期があるでしょう。

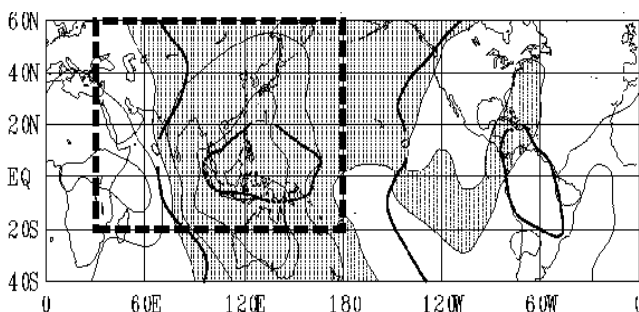
上空約1500mの気温(右図)は、全国的に暖かい空気に覆われやすく、平年より高く予測されています。

予報資料の解釈(1か月) 熱帯循環場

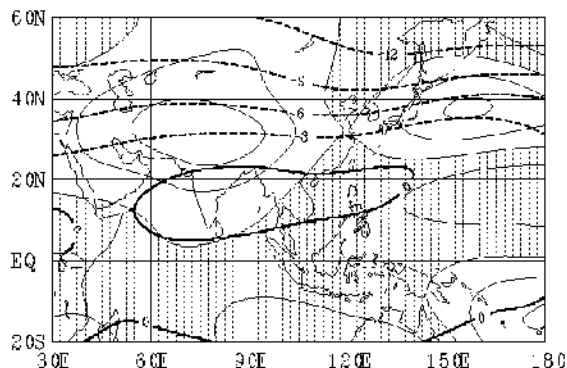
SST偏差



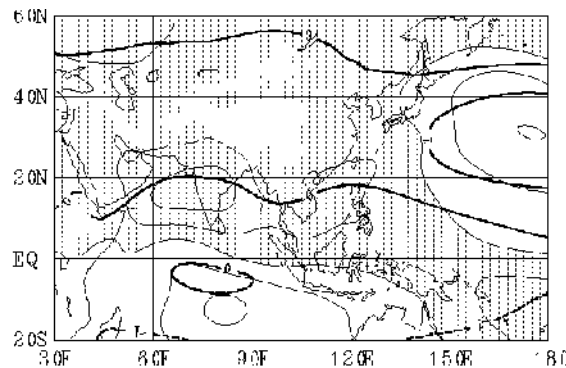
200hPa速度ポテンシャル



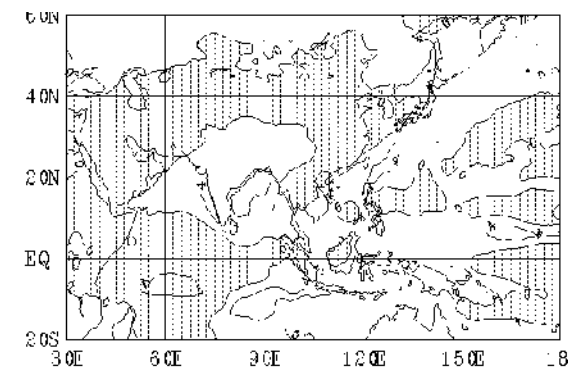
200hPa流線関数



850hPa流線関数



降水量



SST偏差は、ラニーニャ現象的かつ負のインド洋ダイポールモード的な分布。また、日本近海で正偏差。

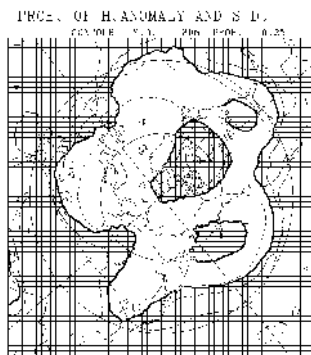
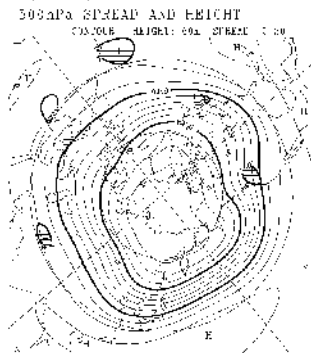
200hPa速度ポテンシャルは、インドネシア付近からフィリピン東方を中心に発散偏差、アフリカからインド洋西部にかけて収束偏差。SSTと熱帯季節内変動の影響。

200hPa流線関数は、中東からミャンマー付近を中心に高気圧性循環偏差で熱帯対流活動の影響。また、日本の東を中心に高気圧性循環偏差で、熱帯対流活動に加え、北方からのロスビー波束伝播の影響も。

850hPa流線関数は、熱帯対流活動に関連し、アラビア海からフィリピン東方にかけて低気圧性循環偏差、日本の南東海上で高気圧性循環偏差で、沖縄・奄美、東・西日本太平洋側に暖かく湿った空気が流れ込みやすい。

降水量は、インド付近と日本の南で多雨偏差。

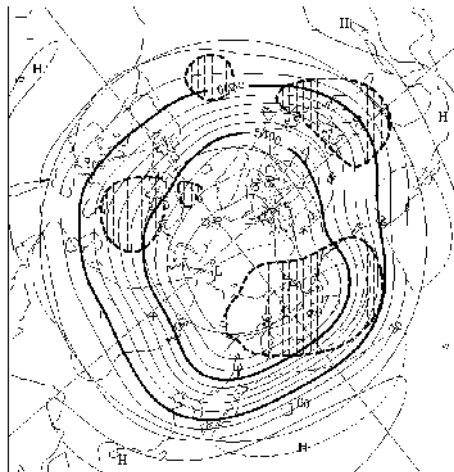
予報資料の解釈(1か月) 北半球循環場



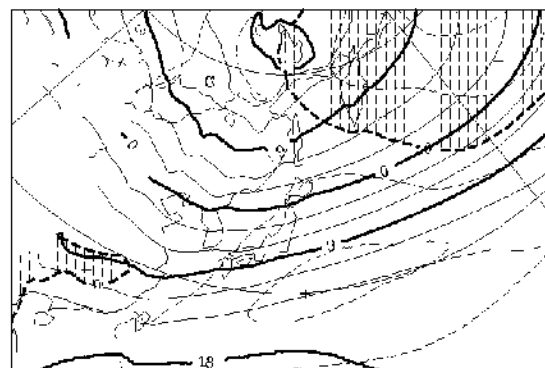
500hPa高度は、ユーラシア大陸北部で波列状の偏差パターンが卓越、その一環として中央シベリアにリッジ、東シベリアから中国東北区にかけてトラフ、日本のはるか東でリッジ(高偏差確率で明瞭)。日本付近は正偏差で、北海道の一部を除き正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

850hPa気温は、日本の南東を中心に正偏差で、日本付近も正偏差。海面気圧は、上空のトラフリッジに対応して、オホーツク海に低気圧、日本のはるか東を中心に高気圧。また、華中・華南付近で正偏差で、日本の南は負偏差。これらのことから、東・西日本太平洋側と沖縄付近は、低気圧、前線や湿った空気の影響を受けやすい。

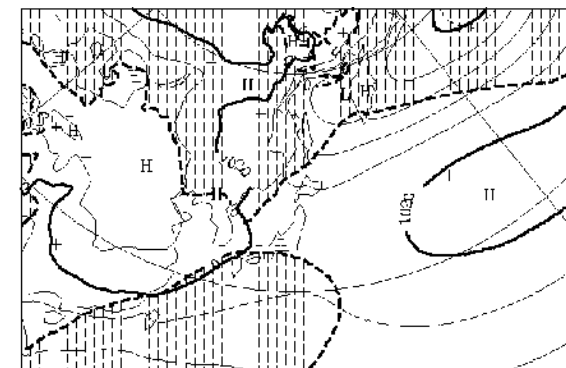
500hPa高度



850hPa気温

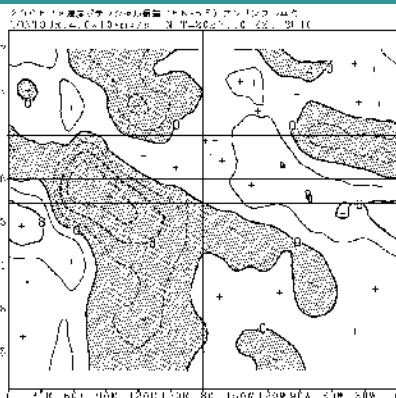


海面気圧



予報資料の解釈(各週) 熱帯の対流活動

200hPa速度ポテンシャル偏差時系列



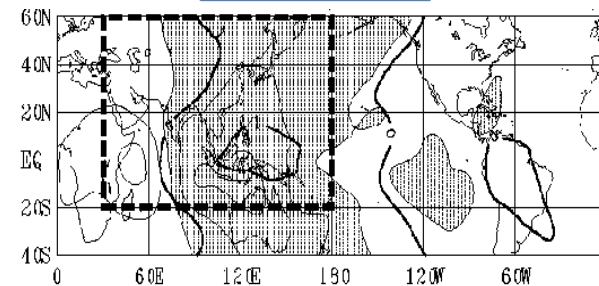
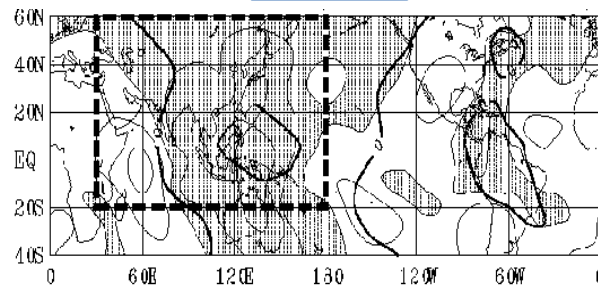
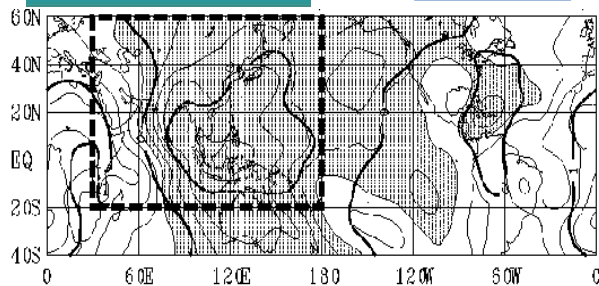
200hPa速度ポテンシャルは、実況から期間前半にかけて、振幅の大きな熱帯季節内変動に伴う発散偏差域がインド洋からインドネシア付近にかけて東進、その後、一部は停滞。対応して発散偏差の中心が、1週目のインドネシア付近から2週目にはフィリピンの南付近に東進。降水量は、1週目はベンガル湾付近で強い多雨偏差。1～2週目にかけて南シナ海から日本の南で多雨偏差。3～4週目には、フィリピンの東方海上で多雨偏差となる。この変化には、熱帯季節内変動が関連。

200hPa速度ポテンシャル

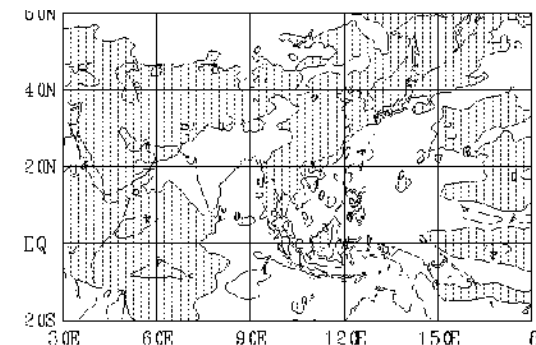
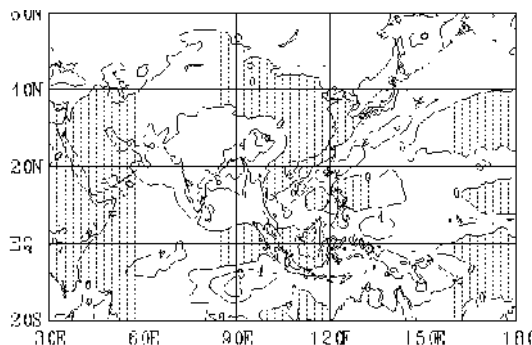
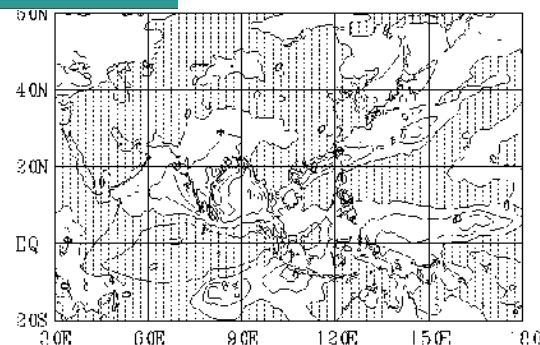
1週目

2週目

3～4週目



降水量



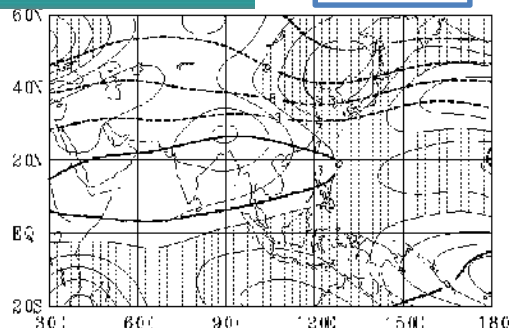
予報資料の解釈(各週) 熱帯循環場

200hPa流線関数は、2週目にインドの北を中心に高気圧性循環偏差が強まり(熱帯対流活動の影響)、その下流は亜熱帯ジェット気流に沿ったロスビー波束伝播により、華中付近にトラフ、日本のはるか東にリッジで、日本付近は西谷。3~4週目はこのトラフリッジ構造が弱まり、中東から日本の東にかけて帯状の高気圧性循環。

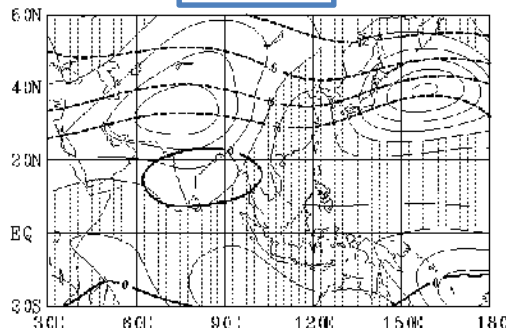
850hPa流線関数は、フィリピン東方は1週目の高気圧性循環偏差から、2週目以降は低気圧性循環偏差に変化(熱帯季節内変動の影響)し、東・西日本太平洋側に南から暖かく湿った空気が流れ込みやすい。

200hPa流線関数

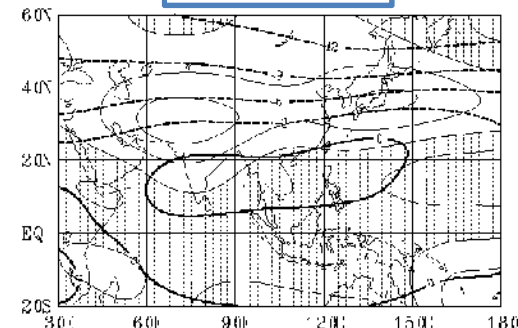
1週目



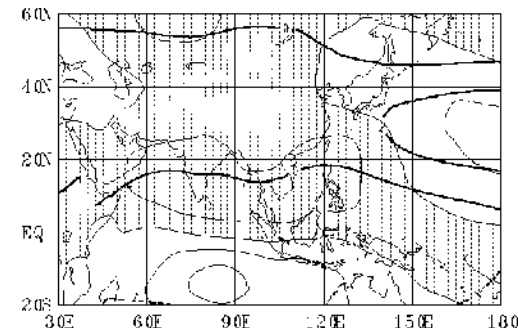
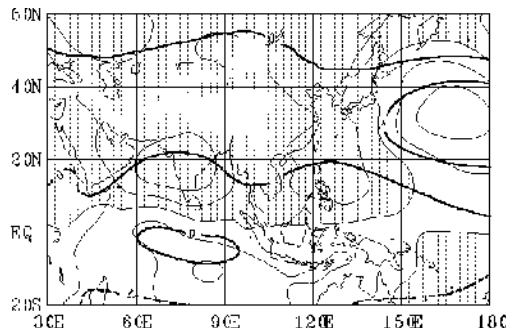
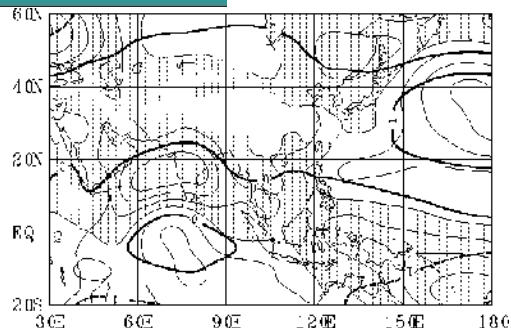
2週目



3~4週目



850hPa流線関数



予報資料の解釈(各週) 北半球循環場

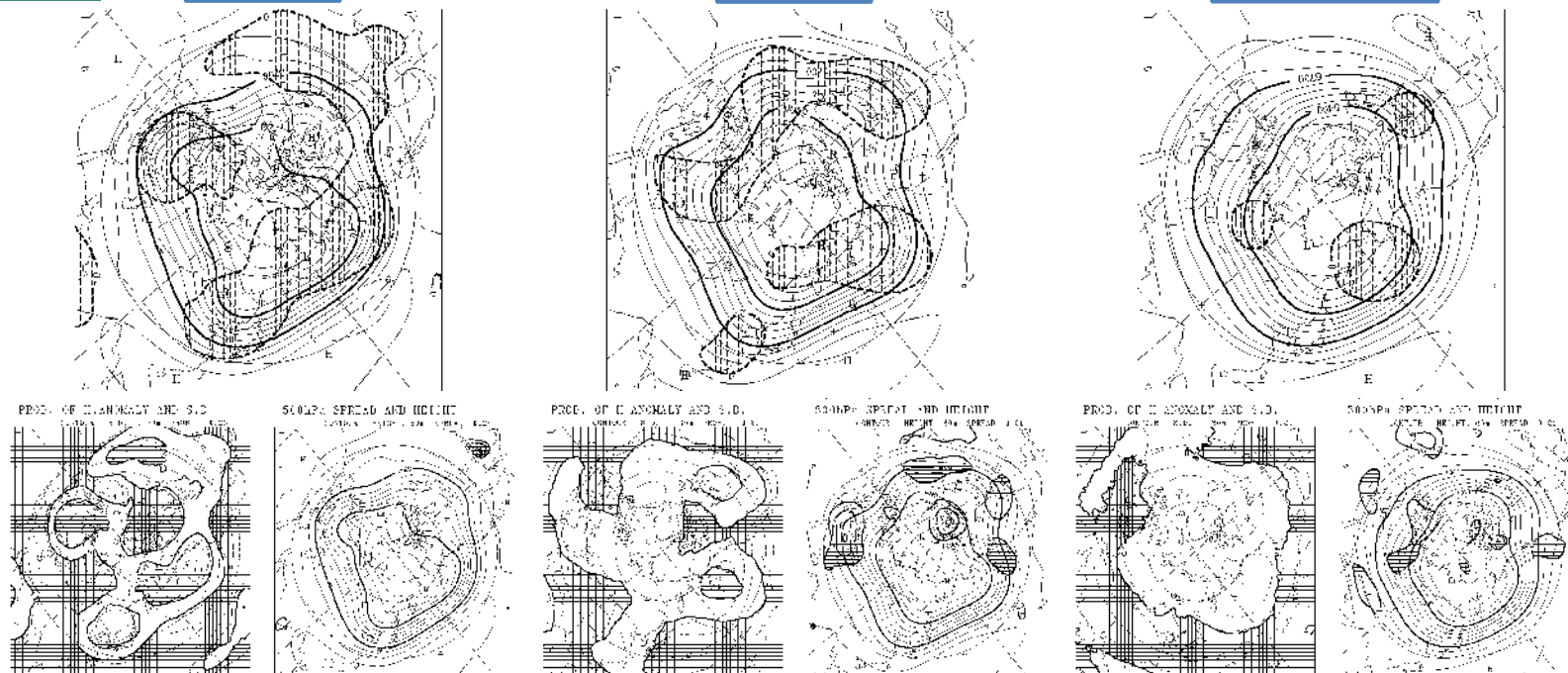
500hPa高度は、1週目は実況から続いて寒帯前線ジェット気流沿いのロスビー波東伝播が明瞭で、その一環で、中央シベリア付近でリッジ、東シベリアから中国東北区にかけてトラフで、北・東・西日本付近も負偏差。2週目に亜熱帯ジェット気流沿いの波東伝播の影響が加わり、華中・華南付近で負偏差、日本のはるか東を中心に正偏差で、日本付近は西谷。3～4週目には、日本付近は中緯度帯の帯状の正偏差域に覆われ、日本付近のスプレッドは大きくない。ただし、モデルが苦手な熱帯季節内変動の影響の不確実性を考慮し、日本付近の高度をやや下げて考える。

500hPa高度

1週目

2週目

3～4週目



予報資料の解釈(各週) 日本周辺循環場

850hPa気温は、1週目は大陸から日本のはるか東にかけて広く負偏差。日本付近の負偏差は日本海北部から北海道中心で、本州付近では南北の気温の傾きが大きい。この状態は2週目には解消し、2週目以降は日本の南から東を中心とする正偏差域に全国的に覆われる。

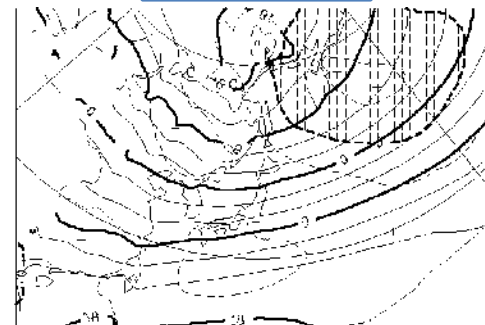
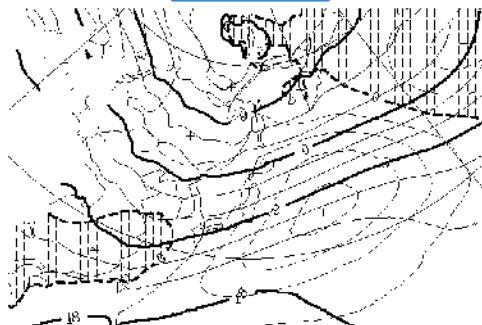
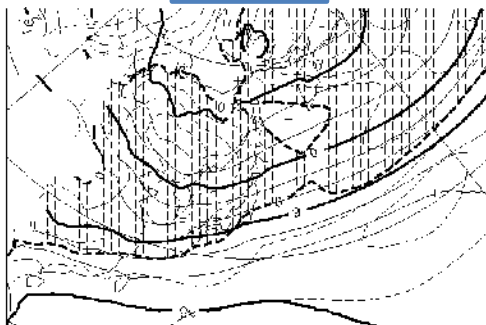
海面気圧は、1週目にはオホーツク海付近に低気圧があり、北・東日本日本海側は、低気圧通過後に寒気の影響を受ける。2週目は、日本付近と日本の南は負偏差で、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では低気圧や前線、湿った空気の影響を受けやすい。3～4週目は、冬型の気圧配置が平年より弱く、全国的に寒気の影響が弱い。

1週目

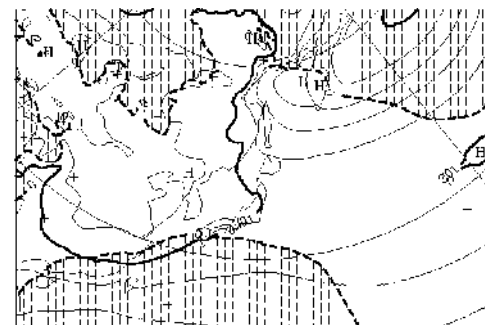
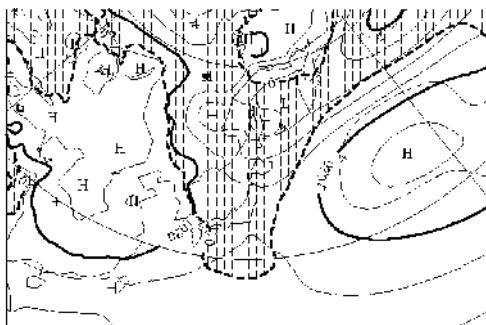
2週目

3～4週目

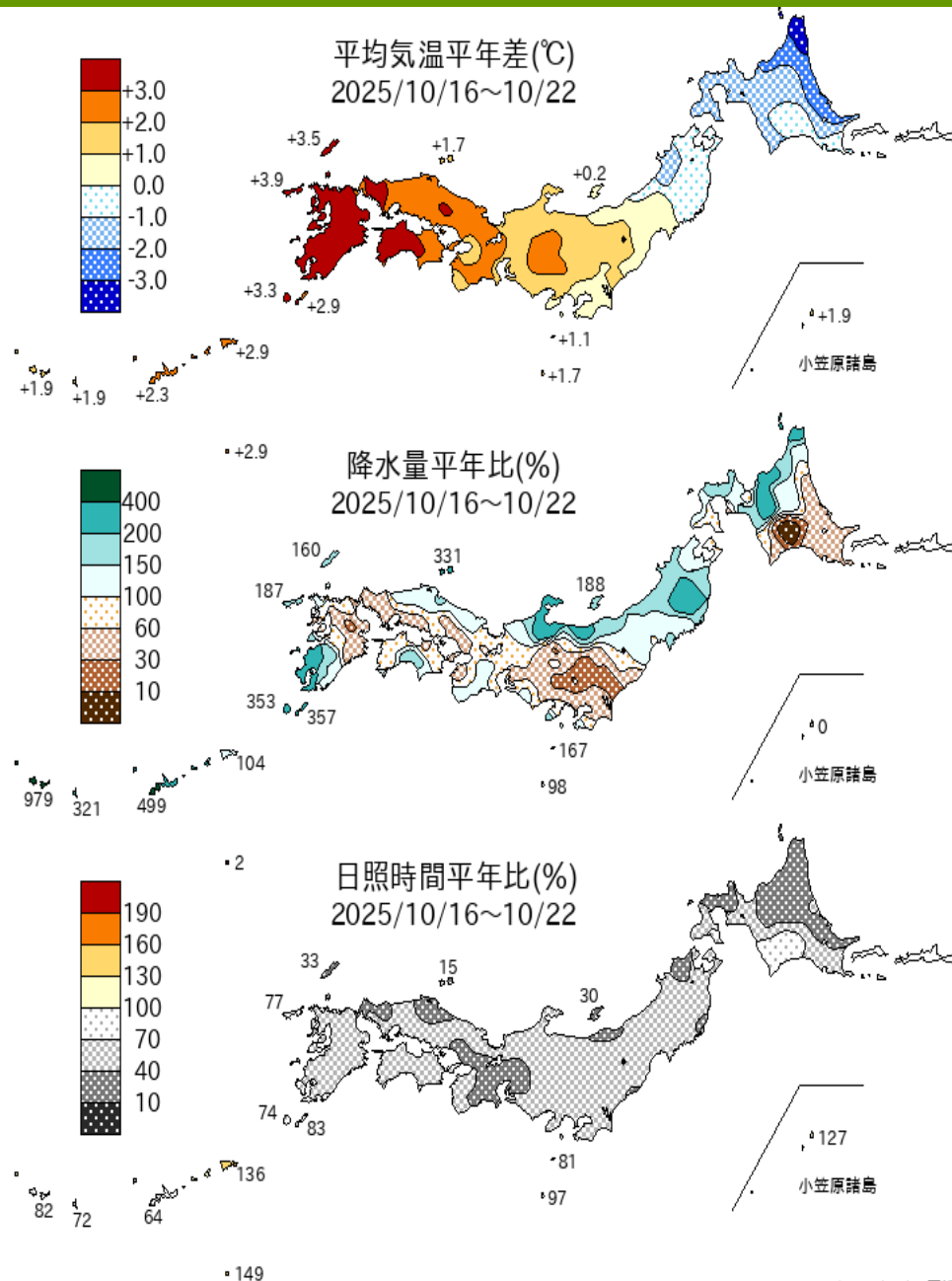
850hPa気温



海面気圧



(参考)最近1週間の天候経過



最近1週間(10月16日~10月22日)は、シベリア高気圧の南下に伴い、その南端に位置する本州付近には前線が形成されました。このため、北・東・西日本では寒気や前線の影響などで曇りや雨の日が多く、日照時間は平年を下回りました。降水量は北・東・西日本日本海側で平年を上回った所が多く、東日本太平洋側では平年を下回りました。沖縄・奄美は、後半を中心に熱帯低気圧や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、降水量は平年を大きく上回りました。気温は、寒気の影響を受けた北日本を除き平年を上回り、暖かい空気に覆われやすかった西日本と沖縄・奄美では平年を大きく上回りました。